

がん治療、ウイルスが加勢

ウイルスでがんを攻撃する

がん細胞だけで増殖して破壊する



がんウイルス療法の開発に取り組む主な企業

CGオンコロジー(米)	対象: ほうこうがん
取り組み: 最終段階の治験。免疫薬と併用する第2相治験も	
TILTバイオセラピューティクス(フィンランド)	卵巣がん・頭けい部がん
免疫を活性化させる遺伝子を組み込んだウイルスを使用。免疫薬と併用する治験を実施	
モフィットがんセンター(米)	乳がん
「トリプルネガティブ乳がん」を対象に、アムジエンのウイルス療法と抗がん剤を併用	
ジェネラックス(米)	難治性の卵巣がん
2022年9月に第3相治験を開始。抗がん剤と併用	
第一三共(日)	脳の希少がん
国内初の「デリタクト」を21年に発売。ウイルスは東大の藤堂教授が開発	
アステラス製薬(日)	進行性固形がんなど
鳥取大学と開発したウイルスを使った第1段階の治験を進める	
オンコリスバイオファーマ(日)	食道がん・胃がん
岡山大学。食道がんを対象に24年に国内で承認申請を目指す	
サーブ・バイオファーマ(日)	骨の希少がん
鹿児島大学。ウイルスを効率良く改変する独自技術をもつ	

米新興が第2相治験、免疫薬と併用 難治克服、再発抑制に道



鹿児島大学など大学の研究成果がウイルス療法の発展を支えている

日本経済新聞

2023年3月10日(金)

日本は2000年ごろから大学の研究が盛んだ。先進国で2番目に実用化した第2相治験を組んだ。がん免疫薬を組み合わせた第2相治験を米国で進めている。海外の大手製薬会社と共同開発に向けた協議を始めたという。

藤堂教授はさらに免疫の働きを高める遺伝子を入れた新たなウイルスを開発した。信州大学で皮膚がんの一種を対象に医師主導治験が進んでいる。藤堂教授は「様々ながんを対象にしたい」と力を込める。

新興企業も参入している。岡山大学発スタートアップ、オンコリスバイオファーマは独自開発したウイルス「テロメライン」とがん免疫薬を組み合わせる専門学会「日本ウイルス療法学会」が発足した。開発を促す体制づくりや制度改革の提言、普及・啓発活動などを進める狙いがある。

22年設立の鹿児島大学発スタートアップ、サーブ・バイオファーマ(鹿児島市)は、同大の小嶋健一郎教授の技術の実用化を目指している。骨のがんを対象にした第2相治験を進めており、膝臓(すいぞう)がんへの応用も検討している。